

福島県マスコット

キャラクター 八重たん

若松一高HPは**こちら**



若松第一高等学校

2015年 No.60 11月20日

2学年全員で、東北学院大学を訪れました

9月3日、2学年において、大学見学を含む特別進路ガイダンスを開催しました。まず始めに、山形大学教授 門馬 甲兒先生による進路講演が行われました。その後、東北学院大学を訪れ、礼拝堂や博物館など、様々な施設を見学させていただきました。

本校はキリスト教学校教育同盟に加入しており、東北学院大学からも、全ての学部指定校推薦枠をいただいています。本年度も本校から東北学院大学に入学している生徒さんがいます。

現在2学年の皆さんにとっては、将来の母校になる大学を訪れた貴重な体験だったかもしれません。進路選択について考える非常に有意義な一日となりました。



グローバル人材育成プロジェクトに本校生が参加。 アフリカ各国大使館を表敬訪問しました

高校生グローバル人材 育成プロジェクト 成果報告会



本校1年生男女2名が会津若松市主催のグローバル人材育成プロジェクトに参加し、女子がカメルーン大使館を、男子がガーナ大使館を訪れ、会津の復興と現状について英語を交えて伝えました。

この時の模様は、10月17日に会津大学で行われた成果報告会にて、発表されました。当日は多数の来場者が訪れ、生徒の発表に聞き入っていました。

一高生の様々な活躍ダイジェスト(新聞記事より)

核廃絶の願い 次代へ

仙台平和七夕40年続ける油谷さん

仙台七夕まつりとしても40年「モーア・ヒロシマ」
「モーア」が主を訴えてきた人がいる。市民グループ平和を祈る七夕市民のついでに代表の油谷重雄さん(70)仙台市青区だ。次世代に平和の大切さを伝えなければならぬ。広島への原爆投下から70年のこども、商店街に掲げた平和七夕の下、核廃絶と恒久平和を呼び掛け。

折り鶴吹き流し 全国から90万羽

揺れた。見物客に配る首飾りの分を加えると、全国から集まった折り鶴の数は計90万羽近く、一つ一つに平和の思いが宿る。
「人類と原爆は共存できない。再びのような惨禍を起すことはならない」
拡声器で平和七夕の趣旨を説明する油谷さんの手に、自然と力がいった。
平和七夕が始まったのは1976年。油谷さんが原爆の惨状を伝える写真を見たり、広島でも風化が進んでいることを聞いたりしたことがきっかけだった。

被災地以外では珍しい取り組みが20年以上、各地から折り鶴が届くようになった。東日本大震災後は復興への思いも込められている。「これまで続くと思わなかった。1回目から代表を務める油谷さんは言、安全食糧関連法案をめぐる動きが注目される中、「政治色は持ち込まない」という基本姿勢は崩さない。次代を拒

かけた。仙台で市民に訴える方法はないか。広島原爆の日と仙台七夕まつりの開催日が同じ日に着目した。
1回目は約20人が集まって2000羽の折り鶴を作った。飾ったのは仙台市役所ホール。広島原爆の日から届いた4万羽の折り鶴と一緒に掲げた。



首飾りの配布に参加した高校生に平和七夕を説明する油谷さん(中央)

河北新報 8月7日掲載

被災地ボランティアに2年生男子4名が参加。大川小学校を訪れたり、地元の子供会活動や様々なイベントを支援。七夕祭には折り鶴を寄付。

県派遣隊「復興を発信」

世界野営大会出場で知事訪問



世界スカウトジャンボリー(野営大会)の福島派遣隊のメンバーは21日、県庁に内堀雅雄知事を訪ね、今月末から山口で開催される日本で開催される。1日2

ジャンボリーに向けて意気込みを語った。
ジャンボリーは28日、8月8日の12日間、44年ぶり。福島県が世界から注目される中、復興に向かう姿を発信したいと述べた。

▲内堀知事に意気込みを語る隊員ら

福島民報 7月22日掲載

ボーイスカウト世界大会に1年生男子が参加。内堀福島県知事を訪問し、意気込みを語る。

パフェ作りを楽しむ参加者



パフェ作り楽しみ、奉仕活動も

猪苗代町の猪苗代教会の子ども会は、同教会で開かれた。本県や宮城県、山形県の教会に通う中高生、大学生が奉仕活動を行うワークキャンプの一環として行われた。約20人が参加した。

猪苗代教会

パフェ作りや教会近くの亀ヶ城公園での運動、夜はバーベキューなどを繰り広げた。ワークキャンプの参加者は、会津美里町の会津高田教会で生け垣の修繕作業などに汗を流した。

福島民報 8月21日掲載

教会奉仕ボランティアに2年男子と1年女子参加。